



マンスリー通貨レポート

2022年4月号

為替レートと為替市場における当面のテーマ

	為替レート (対円) ※ (下段：前月末比)	為替市場における当面のテーマ	直近の強弱	6か月先予測
米ドル	122.39 (+5.92%)	金融緩和の縮小を急ぐFRBの連続利上げ観測で、堅調か	↗	↗
カナダ・ドル	97.90 (+8.15%)	利上げ継続観測による金利先高観で、堅調か	↗	↗
ユーロ	136.70 (+5.69%)	ECBの年内利上げ観測で、下値は堅いか	↗	⇒
英国ポンド	160.89 (+4.08%)	物価高による利上げ継続観測で、下値は堅いか	↗	⇒
スイス・フラン	132.54 (+6.15%)	通貨高回避へのSNBの強い姿勢で、上値は重い	↗	⇒
豪ドル	92.00 (+10.91%)	ウクライナ情勢悪化による資源価格高で、下値は堅いか	↗	⇒
NZドル	85.33 (+10.43%)	住宅市況の過熱抑制策による景気先行き不安で、軟調か	↗	↘
中国・人民元	19.26 (+5.42%)	規制強化に投資家の信頼が揺らぎ、上値は重い	↗	⇒
メキシコ・ペソ	6.16 (+9.61%)	国債格下げによる海外資金流出を警戒し、軟調か	↗	↘
ブラジル・リアル	25.65 (+14.41%)	大統領選前の大衆迎合による財政不安で、軟調か	↗	↘
トルコ・リラ	8.36 (+0.60%)	利上げに否定的な大統領の中銀への圧力で、軟調か	↗	↘
南ア・ランド	8.44 (+12.38%)	景気低迷の長期化や財政悪化で、軟調か	↗	↘

※ 為替レートはTTM(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
出所) FactSetデータ等をもとに明治安田アセットマネジメント作成

筆者：チーフストラテジスト 杉山 修司
 東京大学経済学部卒、ロンドン大学LSE修士
 日本銀行 調査統計局、為替課勤務のち、
 格付会社S&P、ドイチュエ・アセット・マネジメントを経て、
 2016年から現職

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

米ドル ～金融緩和の縮小を急ぐFRBの連続利上げ観測で、堅調か～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました

(相場材料)

- △3月に利上げを開始したFRB（連邦準備制度理事会）が次回5月会合での大幅利上げを示唆したこと。
- △FOMC（連邦公開市場委員会）委員の政策金利予測の集計値が来年末、再来年末とも2.8%へ上方修正され、2年金利も長期金利も2.8%へ向け急上昇したこと。
- △日本の機関投資家の米国債投資に伴うドル買い観測。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼かつて黒田日銀総裁が牽制発言した円安水準への接近。

景気動向・金融政策

景気は過熱、物価高は深刻です。物価高抑制に強い姿勢を示すパウエル議長ですが、景気を冷却も過熱もしない政策金利水準2～3%での利上げ休止を示唆しています。

先行き展望

米ドルは、日本当局の円安牽制発言への警戒や年内の日銀金融緩和の縮小開始観測等が上値を抑える一方、深刻な物価高の抑制に強い姿勢を示すFRBの利上げ加速観測や年内7会合連続利上げ観測等で、堅調とみられます。



為替レート(対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
122.39 (+5.92%)	0.75～1.00% (2022年5月～)	Aaa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
 ※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

カナダ・ドル ～利上げ継続観測による金利先高観で、堅調か～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました

(相場材料)

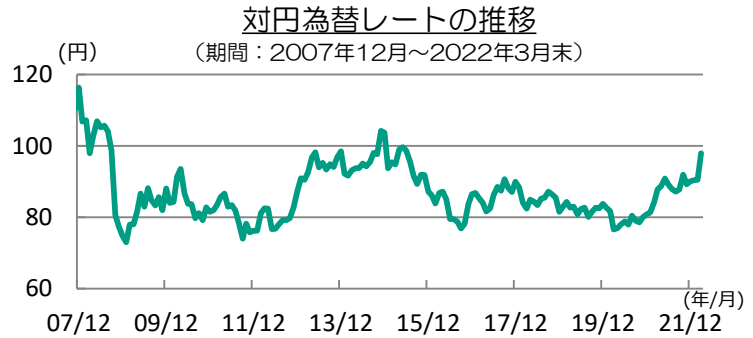
- △カナダ中央銀行が3月会合で0.25%幅での利上げ開始を決定、今後より大幅な利上げの用意があると示唆したこと。
- △2月CPI（消費者物価指数）が30年振りの高い伸びとなり「カナダ中銀は次回会合で0.5%幅で利上げ」との観測。
- △ウクライナに軍事侵攻したロシアへの各国の経済制裁報道等でカナダ主力製品の原油価格が高値で推移したこと。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼カナダ大手鉄道でストライキ、肥料など物流停滞の懸念。

景気動向・金融政策

力強い景気拡大が続いています。深刻な物価高でカナダ中銀は3月に利上げを開始、0.5%幅の大幅利上げをした4月会合においてさらなる利上げ継続を示唆しています。

先行き展望

カナダ・ドルは、半導体不足での自動車生産停滞など部材供給制約による景気先行き不安等が下落要因の一方、ウクライナ情勢緊迫化が拍車をかけた主力製品の原油高や、利上げ継続観測による金利先高観等で、堅調とみられます。



為替レート(対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
97.90 (+8.15%)	1.00% (2022年4月～)	Aaa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
 ※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ユーロ～ECBの年内利上げ観測で、下値は堅いか～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました

(相場材料)

△3月のECB（欧州中央銀行）理事会の会見でラガルド総裁が7-9月期の量的金融緩和の終了と年内の利上げの可能性を示唆したこと。

△ドイツやスペイン等の約40年振りとなったCPI（消費者物価指数）の高い伸びでドイツをはじめ域内の長期金利が大幅かつ急激に上昇したこと。

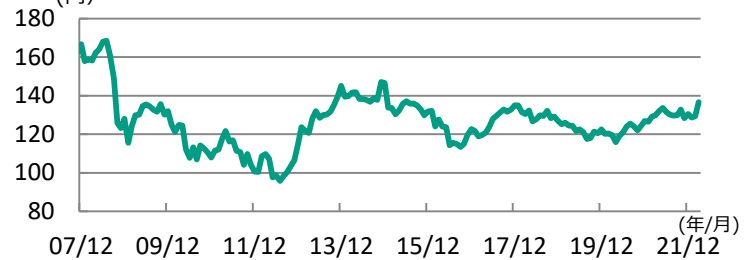
▼ロシア軍が欧州最大級の原子力発電所を占拠する等ウクライナへの攻勢を強め、「ECBは金融緩和の縮小タイミングの後ずれを余儀なくされる」との見方が広まったこと。

景気動向・金融政策

ロシアのウクライナ軍事侵攻の影響等が懸念される一方で、雇用環境は良好であり家計消費の減退は考えづらく景気拡大が続くとみられます。ECBは年内利上げを示唆しました。

対円為替レートの推移

(期間：2007年12月～2022年3月末)



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
136.70 (+5.69%)	0.00% (2016年3月～)	—

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用

※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

先行き展望

ユーロは、「ユーロ圏はロシアのウクライナ軍事侵攻の経済的影響を最も受けやすい」との見方等が上値を抑える一方、インフレ圧力の高まりや景気拡大見通しによる年内のECB利上げ観測等が下支え要因となり、下値は堅くなりそうです。



英国ポンド～物価高による利上げ継続観測で、下値は堅いか～

3月の動き 対円で上昇しました

(相場材料)

△失業率の予想外の改善や求人件数が過去最多となる等、「賃金上昇が物価高を加速しかねずイングランド銀行(中央銀行)の利上げは続く」との観測。

△約30年振りの物価高となる中、米国の利上げ加速観測で「米英の金利差拡大を放置すればポンド安で輸入物価高が加速するので、米国追随利上げは不可避」との見方。

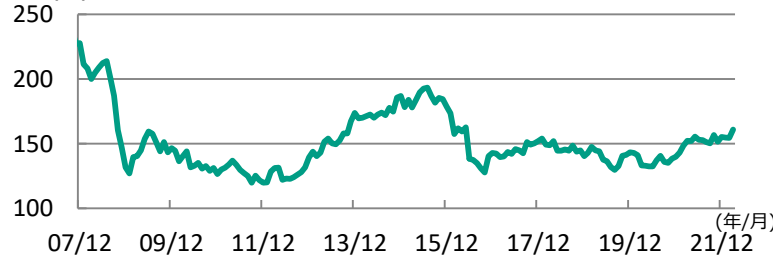
▼3月会合で利上げたイングランド銀行が「次回会合で利上げしたら利上げを休止する可能性もある」と示唆、「米英の金利差拡大はポンド安の要因」との見方。

景気動向・金融政策

今年1-3月期の景気は堅調でしたが、エネルギー等の物価高で来年の経済成長率はマイナスとみられ、イングランド銀行は慎重な利上げで景気悪化を回避する姿勢です。

対円為替レートの推移

(期間：2007年12月～2022年3月末)



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
160.89 (+4.08%)	1.00% (2022年5月～)	Aa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用

※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

先行き展望

英国ポンドは、コロナ行動制限下に官邸でパーティーを主催した首相の退陣論や、離脱したEUとの北アイルランド国境等を巡る対立への懸念等が下落要因の一方、物価高で「緩やかな利上げが続く」との見方等から、下値は堅いとみられます。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

スイス・フラン ～通貨高回避へのSNBの強い姿勢で、上値は重いか～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました

(相場材料)

- △「ロシアのウクライナ軍事侵攻でユーロ圏経済が最も打撃」との見方による対ユーロでの逃避的なスイス・フラン買い。
- △7年前、スイス国立銀行SNB（中央銀行）が為替介入続行を断念し急騰した1ユーロ＝1.0フランが近づき「今回は1.0フランを突破しても市場は動揺しない」との憶測。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼「1ユーロ＝1.0フランを超えるフラン高騰となれば心理的影響が大きい」とのSNB総裁の異例のフラン高牽制発言。

景気動向・金融政策

景気はコロナ感染再拡大で減速していましたが雇用市場改善は続き、SNBは今年の経済成長率を若干下方修正したものの2.5%で堅調と予測、失業率低下も見込みます。

先行き展望

スイス・フランは、主要国の金融政策正常化やウクライナ情勢を巡る相場乱高下等での逃避需要が上昇要因の一方、世界景気回復に伴う逃避需要の後退やSNBの自国通貨高回避への強い姿勢等が下落要因となり、上値は重そうです。



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
132.54 (+6.15%)	-0.75% (2015年1月～)	Aaa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
 ※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

豪ドル ～ウクライナ情勢悪化による資源価格高で、下値は堅いか～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました

(相場材料)

- △2月の失業率が1970年代以来の低水準に迫る勢いで改善、2月の新築住宅着工許可件数も大幅に増加し、豪州準備銀行RBAの「利上げが早まる」との観測。
- △「ウクライナ戦争の長期化で、豪州主力製品の発電用の石炭など資源価格の高騰は続く」とみられる一方、日本は資源輸入大国であり対円で豪ドル高が進む」との見方。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢と対照的にRBAは利上げに前向きになりつつあり両国金利差で投資資金が流入」との見方。

景気動向・金融政策

コロナ禍で減速した景気は予想外に堅調です。労働需給は逼迫しており、RBAは失業率が来年初に50年振り低水準の3.5%前後へ低下すると見込み利上げを開始しました。

先行き展望

豪ドルは、中国のコロナ感染封じ込めのロックダウン（都市封鎖）による世界景気の悪化懸念等が上値を抑える一方、ウクライナ情勢深刻化による資源価格高や、失業率改善に伴うRBAの利上げ継続観測等で、下値は堅くなりそうです。



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
92.00 (+10.91%)	0.35% (2022年5月～)	Aaa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
 ※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

NZドル ～住宅市況の過熱抑制策による景気先行き不安で、軟調か～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました
(相場材料)

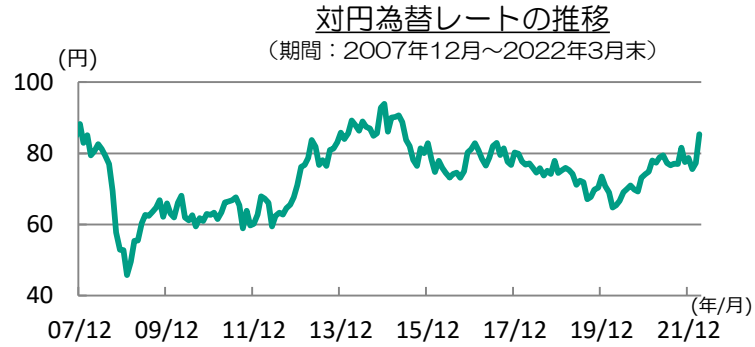
- △政府が3か月前倒した「ワクチン接種したオーストラリア人観光客の入国解禁が経常収支改善に寄与」との期待。
- △「ニュージーランド国債の世界国債インデックスへの組入れが開始されれば海外投資資金が流入する」との期待。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼2月の居住用不動産販売件数が前年比33%減となり、「ニュージーランド準備銀行RBNZが利上げを積極化すれば、住宅価格下落を加速する」との景気先行き不安。

景気動向・金融政策

景気は堅調で、労働需給は逼迫しています。アーダーン政権に高騰していた住宅価格を抑制する異例の金融政策を義務付けられたRBNZは、利上げ継続を表明しています。

先行き展望

ニュージーランド・ドルは、政府に住宅価格抑制を求められたRBNZの連続利上げ観測等が下支え要因の一方、アーダーン政権の住宅市況過熱抑制策による景気先行き不安や利上げを求める政府圧力への懸念等で、軟調とみられます。



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
85.33 (+10.43%)	1.50% (2022年4月～)	Aaa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
 ※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債 (2022年3月末現在) 出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

中国・人民元 ～規制強化に投資家の信頼が揺らぎ、上値は重いか～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました
(相場材料)

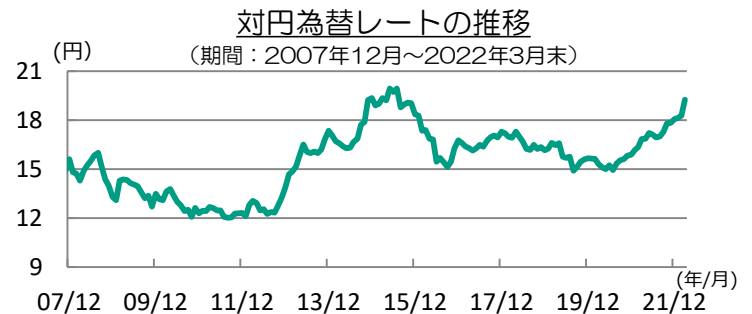
- △「サウジアラビアが中国向け原油輸出に人民元での決済を検討」と報道され「元の地位向上につながる」との期待。
- △中国の輸出企業からの根強い米ドル売り元買い観測。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼コロナ感染封じ込めのロックダウン (都市封鎖) に伴う経済活動の停滞がもたらす景気低迷への警戒感。
- ▼政府のハイテク企業への規制強化等で軟調な中国株価や米中金利差縮小による海外投資資金の流出観測。

景気動向・金融政策

景気は減速しています。主要都市でのロックダウンなど厳格なコロナ封じ込め策で経済活動が停滞しています。中国人民銀行による追加的な金融緩和が見込まれています。

先行き展望

中国・人民元は、「政府の目的を絞った景気支援策で景気減速は一時的」との見方等が下支え要因の一方、中国当局による突然の規制強化に対する海外投資家の警戒や、ゼロコロナ政策に伴う景気低迷への懸念等で、上値は重そうです。



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利 ※2	国債信用力 (格付) ※3
19.26 (+5.42%)	3.70% (2022年1月20日～)	A

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用
 ※2 事実上の政策金利である最優遇貸出金利 (LPR) のうち1年物を表示
 ※3 格付はムーディーズの自国通貨建長期債 (2022年3月末現在) 出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類 (目論見書等) ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

メキシコ・ペソ ～国債格下げによる海外資金流出を警戒し、軟調か～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました (相場材料)

- △ウクライナに軍事侵攻したロシアへの各国の経済制裁報道等でメキシコ主力製品の原油価格が高値で推移したこと。
- △メキシコ中央銀行の高官が「インフレ圧力は今後さらに高まる」と発言、「利上げが続く」との観測。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼財務相や中銀総裁らで構成される政府委員会が「国債や国営石油公社の格下げもあり得る」と警戒感を示したこと。
- ▼今年の経済成長率を政府が3.4%へ下方修正したこと。

景気動向・金融政策

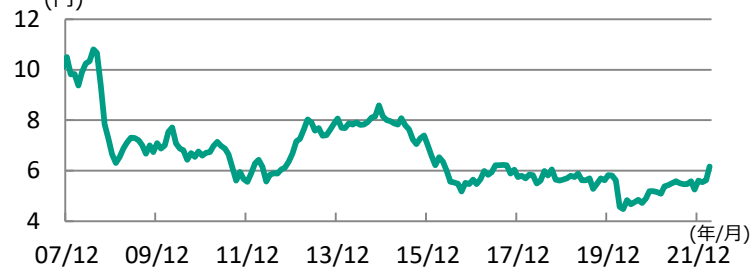
景気は低迷しています。今年の経済成長率は大統領が目指す5%を大きく下回る2%とIMF（国際通貨基金）は予測。物価高に対する連続利上げが景気抑制要因です。

先行き展望

メキシコ・ペソは、ウクライナ情勢深刻化やコロナ禍の供給制約による主力製品の原油価格高騰等が下支え要因の一方、ロペスオブラドル政権の国営企業優遇等に伴う財政悪化懸念、メキシコ国債格下げ警戒等で、軟調とみられます。

対円為替レートの推移

(期間：2007年12月～2022年3月末)



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
6.16 (+9.61%)	7.00% (2022年5月～)	Baa

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用

※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

ブラジル・リアル ～大統領選前の大衆迎合による財政不安で、軟調か～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました (相場材料)

- △「欧米諸国の対ロシア制裁は主力製品の鉄鉱石等の市況高に拍車をかけブラジルには追い風」との見方。
- △10%を超えるインフレが続く中、3月会合で利上げたブラジル中央銀行が次回5月会合での利上げも示唆したこと。
- △日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。
- ▼ブラジル中銀総裁が「インフレは4月がピーク」と述べ次回5月会合で利上げ後、利上げ休止の公算を示唆したこと。
- ▼大統領選前の大統領の大衆迎合による財政悪化懸念。

景気動向・金融政策

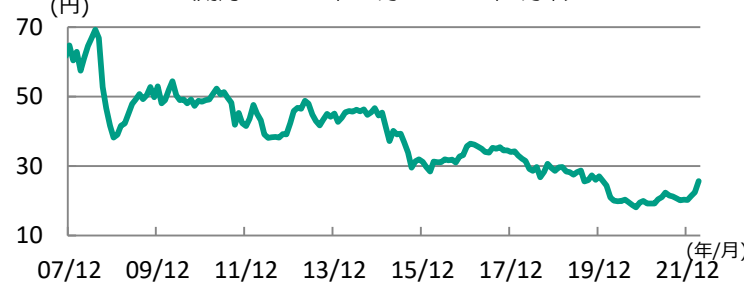
景気は減速しています。コロナ感染対策を発端とする政治的混乱に加え、物価高や通貨安を抑える連続利上げによる景気後退が懸念される等経済的混乱も続いています。

先行き展望

ブラジル・リアルは、ブラジル中銀の利上げ継続観測等が下支え要因の一方、物価高による経済的混乱に加え、大統領選を控えたボルソナロ大統領の大衆迎合による財政悪化や最高裁との対決姿勢への警戒等で、軟調とみられます。

対円為替レートの推移

(期間：2007年12月～2022年3月末)



為替レート (対円) ※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付) ※2
25.65 (+14.41%)	12.75% (2022年5月～)	Ba

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用

※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

トルコ・リラ ～利上げに否定的な大統領の中銀への圧力で、軟調か～

3月の動き 対円でやや上昇しました

(相場材料)

△イスタンブールでのロシアとウクライナの協議に進展があったとのトルコ政府の発表で停戦への期待が一時高まったこと。

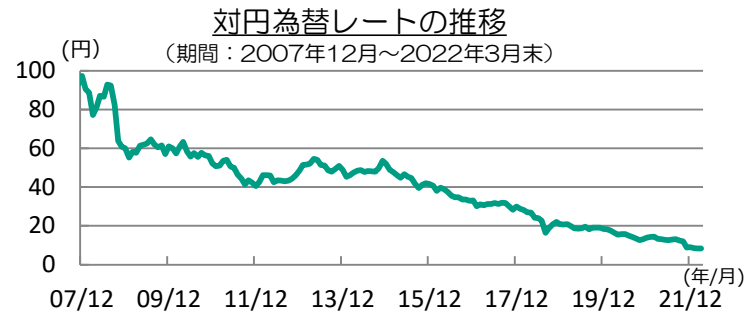
△日本銀行が指値オペで長期金利上昇を牽制、「日銀の強固な緩和継続姿勢が円の独歩安を招く」との観測。

▼「ロシアのウクライナ軍事侵攻で、原油などエネルギー価格や穀物価格の高騰が、トルコの深刻な物価高や経常収支の赤字拡大を加速する」との警戒。

▼トルコ国債が債務不履行となる確率を示すクレジット・デフォルト・スワップがリーマン危機以来の高水準となったこと。

景気動向・金融政策

過熱していた景気は減速しています。3月インフレ率は前年比61%と深刻な物価高です。大統領の圧力による累計5%幅の利下げがリラ大幅安ひいては物価高の主因です。



為替レート(対円)※1 (下段：前月末比)	政策金利※2	国債信用力 (格付)※3
8.36 (+0.60%)	14.00% (2021年12月～)	B

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用

※2 1週間物レポ金利に変更(適用は2018年6月1日以降)

※3 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)

出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

先行き展望

トルコ・リラは、企業や家計の旺盛な資金需要による景気拡大期待等が下支え要因の一方、大統領の金融政策への介入再開で利下げを続けた中央銀行に失望する「海外投資家の資金引き揚げが続く」との観測等で、軟調とみられます。

南ア・ランド ～景気低迷の長期化や財政悪化で、軟調か～

3月の動き 対円で大幅に上昇しました

(相場材料)

△ロシアのウクライナ軍事侵攻で、ロシア市場に投資する欧米投資家が資金を高金利国の南ア国債に振り向ける動き。

△世界的なインフレ懸念によるインフレ・ヘッジ資産として「南ア主力産品の金への需要は根強く、ランドは他の新興国通貨が売られる局面でも底堅い」との見方。

△2月インフレ率も物価目標(3～6%)の上限近くにとどまり、南ア準備銀行は「緩やかな利上げを続ける」との観測。

▼電力不足による計画停電の拡大や南ア東部での洪水被害等で「景気低迷の長期化は避けられない」との見方。

景気動向・金融政策

資源価格高は外需に追い風ながら内需は厳しく失業率は過去最悪です。3月に3会合連続で利上げした南ア準備銀行は物価見通しを上方修正、利上げは続きそうです。



為替レート(対円)※1 (下段：前月末比)	政策金利	国債信用力 (格付)※2
8.44 (+12.38%)	4.25% (2022年3月～)	Ba

※1 為替レートはT T M(対顧客電信売買相場の仲値)を使用

※2 格付はムーディーズの自国通貨建長期債(2022年3月末現在)

出所) FactSetデータ、各国統計局等より明治安田アセットマネジメント作成

先行き展望

南アフリカ・ランドは、世界的なインフレ懸念による主力産品の金への需要等が下支え要因の一方、暴動を招いた過去最悪の失業率や電力不足等による景気低迷、大衆迎合的な財政拡大による財政悪化への警戒等で、軟調とみられます。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまへの情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成基準日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

マンスリー通貨レポート

4月の主な経済・政治関連日程

金融政策決定会合(決定日)

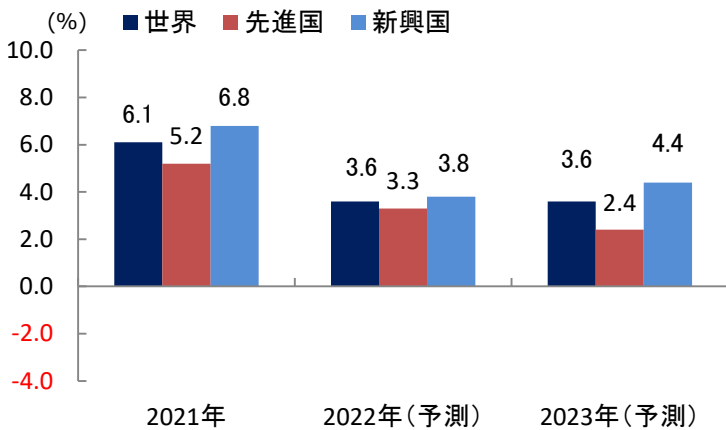
	豪州準備銀行 (5日)
	ニュージーランド準備銀行 (13日)
	カナダ中央銀行 (13日)
	トルコ中央銀行 (14日)
	ECB (欧州中央銀行) (14日)
	日本銀行 (28日)

経済・政治関連

米国	3月雇用統計 (1日)
米国	3月CPI (消費者物価指数) (12日)
米国	3月小売売上高 (14日)
ドイツ	4月CPI (消費者物価指数) (28日)

出所) 各種報道資料等をもとに明治安田アセットマネジメント作成

(ご参考) 実質GDP成長率見通し (IMF)



	2021年	2022年 (予測)	2023年 (予測)
米国	+5.7%	+3.7%	+2.3%
カナダ	+4.6%	+3.9%	+2.8%
ユーロ圏	+5.3%	+2.8%	+2.3%
英国	+7.4%	+3.7%	+1.2%
オーストラリア	+4.7%	+4.2%	+2.5%
ニュージーランド	+5.6%	+2.7%	+2.6%
メキシコ	+4.8%	+2.0%	+2.5%
ブラジル	+4.6%	+0.8%	+1.4%
トルコ	+11.0%	+2.7%	+3.0%
南アフリカ	+4.9%	+1.9%	+1.4%
中国	+8.1%	+4.4%	+5.1%
スイス	+3.7%	+2.2%	+1.4%
日本	+1.6%	+2.4%	+2.3%

出所) IMF (国際通貨基金) 『World Economic Outlook』 (2022年4月改訂版より明治安田アセットマネジメント作成。

当資料における先進国・新興国はIMFの定義に基づく分類。

※上記予測は、将来における各地域、各国の実質GDP成長率を保証するものではありません。